

CIPA

中国インテリアプランナー協会

Chugoku Interior Planner's Association

<http://cipa21.com/>

2003 vol.08
通信

Communication

〒731-5135

広島市佐伯区海老園1-13-7

(有)エルイーオー設計室 内

TEL: 082-923-2132

FAX: 082-922-0018

Email: cipa@cipa21.com



AUVERGNE / FRANCE

会長のつづやき

鉄の馬

還暦に買った真っ赤なバイクは、現在7,500km走っています。

時々、CIPA事務局長のご機嫌を伺いに参上するのもこのバイクです。空冷2気筒883ccのエンジン音はかなり大きく轟くので、前もって、いつものすばらしい笑顔を用意して下さるのにとでも役立っているそうです。今までに2回転倒しました。もちろん止まっている時で怪我はしていません。足を出来るだけ遠くにサポートしないと約230kgの車体重量を支える事が出来ません。足の強さを保つことも必要です。常にバイクの重心と2本の足の位置関係を頭に入れながら方向転回をしなければ転倒を防げません。

このバイクの特徴は、半世紀前のローテクを守っていることでしょう。すなわち工作精度は低く、機械振動が大きい。なのにこれを吸収する制震ゴムなどに頼っていません。頑丈な部材で耐え、各々の機能をシンプルな形で充たそうとしています。最近のバイクはプラスチックとゴムを多用し、電気製品のような音と振動がします。

人が夢見た鉄の馬はこれでいいのだろうかという疑問がこのバイクを選択させました。ローテクな大きな音、体に伝わる振動、頑丈で明解なデザインを今は気に入っています。本屋、図書館を巡り、インテリア関係の雑誌を捲るのも、四季折々の花の香りを嗅ぎ回るのも、不況の風の冷たさを直に感じるのも、週一回の天文学談議に出かけるのもこのバイクです。

太陽の寿命はあと45億年とか、人類は170万年前に生まれ、変化の少ない169万年を過ごし、1万年前に文明を創りはじめたとか。天動説を信じていた頃、火星、木星の動きは人の目を惑わすような不可解なものであったから、惑星と呼んだとか。その後、地動説となり、なかでもケプラーが惑星楕円軌道説によってこれらの疑問をクリアにしたんだとか。

今、サステナブル・デザイン(持続可能な設計)とか話題になっていますが、果たして5億年とかの天文学的な寿命を地球は得られますかどうか。鉄の馬に乗って模索しています。

(7 MAR. 2003 日高卓三)



Illust by S.YUMI

Interview

インタビュー：事務局広報
取材：平成15年2月21日

「とき」のひと 第2回 桑田 覚

*このコーナーでは、様々な分野で活動されておられる方々にインタビュー形式で登場していただいております。
第2回目として、鉄作家の桑田覚さんにお話を伺いました。

Q. 桑田さんが素材として鉄を選ばれたきっかけをお聞かせいただけませんか？

A. 私は大学時代は美大で彫刻を学んでいました。そこで素材として様々なものを扱い、その中に鉄もあったのですが、その時は全く興味がなかったと言っていいでしょうね。

大学を卒業して出会った人と、知り合って1年半ですぐ結婚したのですが、ふたりで外国に行きたくて、3年間一生懸命お金を貯めて、まず、ヨーロッパに半年行きました。その時はバックパッカー...つまり旅行者として行った訳です。帰って、たまたまアルバイトに行った先が、藤沢にある小さな鍛冶屋さんでした。

大学時代に鉄も扱った事がありましたので、自分なりにやっておいたら、その奥さんが「私の方がうまいわよ、貸して...」と言われてしまいました。見るに見かねたんでしょね。でもそこで昼休みに始めて金床(かなどこ)の上でハンマーを叩いたんです。その時「キーン」という音がしたんです。その音に運命的なものを感じ、「これにしよう~！」って...これが私と鉄との出会いです。

それから、今度は旅行者としてではなく、生活者として外国に行こうと思い、アメリカに行きました。最初の1年間はランドスケープ(造園)の会社で働き、その後の1年間はヨットの滑車を作る工房で働きました。

アメリカとカナダを廻っている間にアルバイト(アメリカ)という鉄作家に出会いました。ロチェスターに住んでいた彼に手紙を書き、私も生活がありましたので図々しくもなんとかそこで働かせてほしいと申し出ました。なかなかそこでお金をもらうまではできませんでしたが、でも少しの間そこで勉強させていただきました。その町はコダックの本社があった所ですが、寒い冬は零下19度にもなる厳しい所ですが、夜にはそのコダックの持っている音楽学校で毎晩コンサートが行われ、とても楽しい時をすごしました。良く、「先憂後楽」と言いますが、私の場合その全く逆をしてしまった訳です。子供も作らず、夫婦ふたりでしっかり楽しみました。

Q. 現在、桑田さんは様々な建築家と一緒にもの作りをされていますが、どのような思いで作られておられますか？

A. 今まで私は家の門扉とかテスリ、小物といったものを作ってきましたが、これは全く私の意志だけで作られるものではありません。クライアントであったり、設計者のイメージがあって始めて形が出来上がるのです。でも作っていく課程で段々形が見えてくるのです。それがいつの間にか確信となった時、自分は「やってるんだ~！」という満足感が産まれてくるのです。これはきっとみんなとのコラボレーションから産まれてくるものなのでしょうね。なかなか楽しいものです。

Q. その他に桑田さんは様々な作品も発表されていますが、その作品づくりにおいて少し伺わせていただけないでしょうか？

A. 自分の作品については、これはふとした事、例えば自然の中であったり、ふとした日常生活の中で大袈裟に言えば、メッセージがくるのですね。今の私の中にあるのは「滝」です。勿論、時代性もあるのですが、...。ただ、この水と鉄...何処をみても全く接点のないようなこのふたつをどう結びつけるか...水を鉄にどのように変容させるかが、今の私の大きな課題です。実はこの滝の前は紙袋(ペーパーバック)でした。みんなが何気なく使っている、なんてことない紙袋に惹かれたのです。面と面の間に線があって、折れ目が線に...。この一見なんでもない紙袋をテーマに約2年間作品をつくりました。「物を作る」という事は大変おもしろい事です。私自身、もの造りにおいても、生きるという事においても決して器用な方ではありません。むしろ不器用です。でも私は一度も器用になりたいとは思った事はありません。この自分の「不器用」を愛しているのです。私の作るものはこの不器用から産まれたものだと言っていいと思います。是非若い方に物作りのおもしろさを感じていただきたいですね。



インタビューを終えて、笑いながら「私はず~っとひとりで物づくりをしてきて、奥さんが側で鉄を作るのを手伝ってくれる訳ではないのだけど、楽しい時も苦しい時もず~っと一緒にやってきたんだよね。」その言葉に、桑田さんの作品から出る暖かさを感じました。決して鉄は冷たいものではないという事も...。物づくりの原点を教えていただいた思いがしました。ありがとうございました。

Profile

桑田 覚 くわた さとる

1949 広島県生まれ
1972 武蔵野美術大学卒業
1977 滞欧
1978-79 斎藤昭二郎氏に鉄工を師事
1980-81 渡米、Albert Peley氏に鉄工を師事
1981 広島にて建築金物製作を始める
1991 個展「鉄の捧げもの」vol.1、vol.2(ヤマイリビングシティ広島)
1994 ハルコアーバナーで南エリア賞
1996 公募「広島美術」で佳作賞
1998 昭和シェル石油現代美術展入選、「小さな絵画・大きな輪」展入選
1999 個展「鉄難」(HAP広島)
2000 個展「読書する鉄・鉄学する本」(宮森建設設計室+HAP広島)
一関「あたたかなたち」で奨励賞、エブソカラーイメージコンテストで審査員賞

address: 広島市佐伯区観音台1-43-1
TEL: 082-923-0730
E-mail: kuwata@ms2.megaegg.ne.jp

Report

「直島とイサム・ノグチ」ツアー

前置

今回のツアーに、「行かないか?」と、先輩の、青木氏より声をかけていただき、喜んで参加させていただきました。土曜日の早朝、ツアー出発ということで、宿泊先まで段取りしていただき、お世話をかけました。

島根県大田市から参加の我々四名は、前日の金曜日の午後4時に出発しました。この時から、我々の研修旅行は始まっていました。というのも我々は、FCA(一級建築士の会)で、毎月一回、酒を酌み交わしながら集会を開いているからです。ですから、車に乗り込み、2、3分後には、コンビニでビール等を仕入れているのでした。(もちろん、運転されている方は、お茶でした)そうしているうちに、気分よく アツという間に宿泊先へ着いていたのでした。まずは、ご苦勞様でしたと、言いたいところですが、荷物を置くや否や、市内へ繰り出しました。以下省略(大変、楽しかったです)

感想

次の朝、時間厳守の我々は、予定通りバスに乗り込みました。第一の目的地へ着くまでに長い時間があり、バスの中で、有名芸術家のビデオが始まった。なぜか、睡魔が襲ってきたが、それでもなんとか、興味のある部分は見入っていました。それは、安藤忠雄氏の絵日記でした。その絵日記というのは、いわゆるスケッチに、覚書、雑記帳でしたが、何度も同じところへ訪れ、それをつなぎ合わせたものでした。デジカメの時代に、さすがである。(写真も撮るそうですが)それを後からみると、その時の気になっているヶ所とかが、描き込みのタッチとかで、よみがえってくるようだ。大体の有名建築家は、いつもスケッチブックを持ち歩き、いつでも、手を動かしている。(私も、スケッチブックを、持ってくればよかった)そんなことを、思っているうちに、第一の目的地へ着いた。

そこは、家プロジェクト2番目完成の、南寺でした。ここには、驚かされた。どうして驚いたかは、ここに来られた人にだけわかります。最初からインパクトがあり、今日は、これで、もう帰ってもいいかな、と思いました。

次に、家プロジェクト最初の、角屋を見学しました。ここは、雰囲気は、わが町近くの、石見銀山の町並みのようでした。

そして、私の今日のメインディッシュであります、安藤忠雄氏設計のコンテンポラリーアートミュージアムです。そこは、バスの中で、安藤氏が語っておられたように、年月を経て、やっと、自然に融け込んでいた。外観は、岩か、石が寄せ集められているような印象を受けた。一言で言えば、何も無い森、という感じでした。建物の中は、思ったより広く、あちらこちらに、のびているようでした。地面にもぐっているような、斜面に、へばりついているような、外から観たのとおり、全体像がつかめない。「さすがにやるな」と言った建物でした。ただ、中に展示されている作品については、私には、理解不能でした。

最後に、イサム・ノグチ庭園美術館ですが、そこでは、新たに発見したことがあった。先程のコンテンポラリーアートミュージアムの作品観賞の時から薄々感じてはいたけど、自分には、絵画も、彫刻も理解する能力のないことが、よくわかりました。(せめて、建築では人並み以上に、頑張ろう!)

後書

いつも思うことですが、研修会とか、講習会へ行った後は、しばらくは「人間、日々精進、切磋琢磨」という気分で行られるのに。今回こそは少しでも長く持続させ、良い仕事をしたい、と思う今日の頃です。

最後に、貴重な体験をさせていただき、お世話いただいた方々に、感謝します。ありがとうございました。

高野建築設計事務所 高野 敏彦

はじめに

この度のツアーを企画された皆様に対して心より感謝致します。

今回のような印象に残った研修旅行は初めてでした。

今後ともよい企画を楽しみにしております。

直島・家プロジェクトについて

現代の時間の速さを忘れさせる経験でした。特に「南寺」では真っ暗な中で人間と言うより自分自身が7~8分間の短い時間の中で、不安、恐怖、諦め、安堵、というものを感じ、そして僅かな光で物が見えてくる様は、初めての感動を覚えました。

光と視覚の関係、平素自分達が持っている感覚の凄さを改めて解らせていただきました。又、直島の伝統的な民家を生かしてアートされている閑静な町並みは、何時までも観光客に荒らされることなく大事に育ててほしいものです。

アートミュージアムについては残念ながらさほど印象に残りませんでしたが、瀬戸内海の景色には感動しました。

イサム・ノグチ庭園美術館について

イサム・ノグチ氏についてはよく知っていませんでしたが、作品を見せていただいた感想として、大きな石を数個のブロック体にして、円、楕円、曲線、ねじれ、線に加工し接続されたものが微々たるズレなく一体になっている様を見て作品全体の表現は解りませんが、その仕事の技に感動しました。

今後の希望事項

- (1) 集合場所で案内プラカードを掲示してほしい。
- (2) 飲み物を用意される場合はビール等も含めてもらえればうれしいです。
- (3) ツアー終了後、顔合わせ懇親会を企画に含めてもらいたい。



以上、協会事務局並び企画関係者の方々に深く感謝申し上げ、私の報告とさせていただきます。

(有)チェスト 青木 克幸



Report

長町三生講演会 「感性工学とインテリア」

「感性工学」...あまり馴染みのない言葉であるが、実は日本で発明された感性工学(最もその発明をされた先生が広島国際大学学部長、長町三生教授であるが...)が今、世界中で広まりつつあるのだ。感性という言葉がそのまま[kansei engineering]として使われている。

まず、「感性とは何であるか」...人間は5つの感覚を持つといわれる。

見る(視覚)、聴く(聴覚)、嗅ぐ(嗅覚)、味わう(味覚)、接触感覚、温度感覚(皮膚感覚)である。そしてそれらには特定の感覚器官がある。そして、それらを「認知」する。感覚処理と認知処理を統合した感情が「感性」だというのだ。ここまで書くと「うーん? 良く解らない?」と思ってしまうだろう。では、実際に身近に感じられる行動としてとらえてみる。

あるレストランに入ったとする。まず、お店の第一印象を感じる。つまり(視覚)でこのお店は可愛いとか、美味しそうだとかいったような、ある感情を持つ。次に入口であった従業員からも同じく視覚的に感情を持つ。そして、お店のインテリアからこのお店のセンスを視覚的に感じ、注文されて出た料理を見て、臭いを嗅ぎ(嗅覚)、その料理を味わう(味覚)、これらの刺激から総合的に評価(認知)し、「なかなか上品で客扱いの良いお店だ」と感じるのだ。これら人間の心理に関するものは今までは心理学や生理学で研究されてきたものだが、これらを統合して単独で研究する事として、感性工学という分野がでてきたという。

この分野での研究成果として、実際、長町先生は自らマツダのユーノス・ロードスターの開発に関わられたというのだ。この場合まず「人馬一体」という言葉がコンセプトにあったという。人が馬にのった時のような感覚。人間と車が一体となって走れるもの。「Tight感」、適度な狭さであり、密着感があるもの。「Direct感」、ドライバーの意のままに操れるもの。操作性の良いもの。「走り感」、速いフィーリングでダッシュ感が感じられるもの。「コミュニケーション」、自然や土との対話ができるもの。

それらを形にする為に人間工学的実験であったり、その分野での工学的手段により決定していく。例えば、「自分で操っている感じ」にする為には車のシフトレバーで表現するのが適切だと考えた場合、シフトレバーの長さを何通りにも変化させ、それぞれの長さの操作をSD法で心理測定しその結果により、9.5cmが最適である事を発見した。また、スピード感を感じさせる為には、アクセルを踏み、実際に車が走り出すまでの時間の短縮をいかにするかという事になるが、アクセルを踏むと、実際には車は動き出していないにも関わらず、その前にタコメーターを微妙に動かす事で一体感を感じさせたという。一種のバーチャル的感覚なのである。

シャープの冷蔵庫の開発に携われた時には、実際ある家庭の冷蔵庫の前にビデオを設置し、観察してみたという。一体一日に何回主婦は冷蔵庫を開け、どんな動作をしているか、データをとっていく。その中で沢山の発見があった。そこから今の日本の冷蔵庫の基本ともなった、沢山ドアのついた冷蔵庫が開発されたという。

これらに共通するもの、それは全て使う人間、消費者の立場から見た商品開発という事だ。それらがあってこそ、デザインも作られていくのだ。全ての行動、出来事にはきちんとした裏付け、つまり学術的に説明ができるという事である。

もし、これらをきちんと理解した上で、始めてモノづくりをしていけば、本当に無駄のない、ニーズにあったものを作り出せると思う。

これは、きっと身の回り全てに関していえる事なのだろう。

エルイーオー設計室 中川 圭子

南研子講演会

「アマゾン? 環境? 少し心して聞かねば、難しいかな?」と、思いつつ 2月15日、南研子さんの講演会の日が来ました。ところが、お話が始まるにつれ、気負っていたことと少し違う何かを感じ始めました。今まで知らなかったアマゾンの自然、人々の暮らし、そして、今起こっているアマゾンでの出来事。アマゾンはどこか遠く、本やテレビの中の、世界のようなものでしたが、アマゾンは実際にそこにあり、私たちに直接つながる、とても大切なものであることを知りました。

地球の1/3の酸素を作り出しているアマゾン。そこを壊すことは、私たちの生活を脅かすことと同じという事。今、私たちを取り巻く環境は、物質的に豊かで、様々な選択が可能になりました。しかし本物に触れる機会が、少なくなったように思います。アマゾンには、自然だけでなく、心の豊かさや、人々の忘れかけていた本物が、沢山ありそうです。

南さんがおっしゃっていた「好きなことだけをしなさい」の言葉に、心から癒されました。南さんの、とても気の遠くなるような、アマゾンでの活動。そんな偉業をパワフルに成し遂げておられるのも、アマゾンには、私たちの本能を揺さぶる何かがあるからなのだと思います。

心の中がジワッと暖かくなる、そんな講演会でした。

大光電機株式会社 古賀 由美子



Plannig

ののほま保育所 村上建築デザイン事務所

建物の老朽化と定員増によって建替えられた保育所です。

保育所からの要望は、

- 1) この施設が派手々しくなく、子ども達にとって第2の家となるよう家庭的な雰囲気にした。
- 2) 管理しやすい保育室の配置にして欲しい。
- 3) シックハウス対策。

保育所は園児にとって1日を過ごす場所であり、生活の場である。家庭的で飽きのこない落ち着いた雰囲気となるよう設計されている。それでいて、ここに来るのが楽しくなるよう子どもの目線で窮屈にならぬよう計画されている。

中央に大きな吹き抜けホールが配置してある。母親の子宮のごとくここには太陽の光があふれ、風が通り抜け、子ども達が行き交う。雨の日には恰好の遊び場にもなり最も開放的な空間になっている。職員室は安全管理上、園庭、門、各保育室が十分見渡せるよう配置している。シックハウス対策としては、合板類は全てF0C、塗装はオスモカラー塗り、クロスはケナフを使用し、畳はわら床を使っている。床暖房とエコアイス空調を組み合わせて乳児にも快適に過ごせるよう配慮している。又、これからの主流となる電化厨房を取り入れている。

村上 明宏

ののほま保育所

所在地	広島県福山市大門町
地域・地区	第1種住居地域
敷地面積	729m ²
建築面積	386.82m ²
延べ面積	698.92m ²
構造・階数	RC造地上2階
建築主	社会福祉法人和泉福祉会 ののほま保育所
設計・管理	村上建築デザイン事務所
施工者	(株)前田組

外部仕上げ

屋根：シート防水露出工法 1部折板葺き
外壁：コンクリート打ち放しデッキガード塗り
建具：アルミサッシ

内部仕上げ

保育室 床：ナラフローリング
腰壁：ナラ練り付合板H=1050
壁・天井：ケナフクロス貼り
ホール 床：ナラフローリング
腰壁：ナラ練り付合板H=1050
壁・天井：ケナフクロス貼り
便所 床：塩ビシート
壁：化粧ケイカル板張り
天井：化粧石膏ボード張り



カフェ ホクストン アトリエ平田

敷地は、竹原の市街地からほど近い海辺である。何も無いがらんとした土地が、青い瀬戸内海を前になんだか人待ち顔をしていた。敷地に立ってぼんやり海を眺めているだけでも時を忘れてしまいそうだが、ここにコーヒーと音楽があつたら？ まったくそれはカフェを建てようとするオーナーと、この敷地の幸運な出会いだったと言えるだろう。

それでは、海がより美しく見え、自然のうつろいをゆったりと眺めていられるような建物をつくろう。エントランスは壁の存在感を大きく、そこを抜けると海への眺めが突然開けるように、空への開放感もできるだけそこなわないように。そのために空間が海に向かって立体的に開かれた形態とし、素材はこれを妨げないごく素朴なものをしよう。そうして、カフェホクストンができあがった。JAZZ好きのオーナーの希望で、景観を背に小さなライブができるような仕上がりになっている。

この場所が、海と人と音楽の接点として、いつまでも人々の心を癒してくれることを願う。

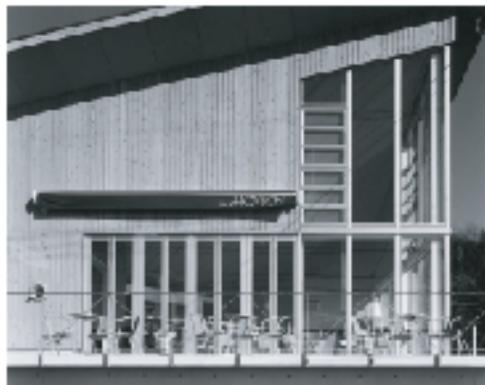
平田 欣也

カフェ ホクストン

所在地：広島県竹原市忠海長浜3丁目4-10
TEL:0846-24-2011
営業時間：午前11時～午後11時（定休日前は午後8時まで）
定休日：毎週月曜日（祝日の場合は翌日）

設計；アトリエ平田

施工：共立建設(株)中国支店
家具：天童木工 広島出張所
敷地面積：993.00m²
建築面積：123.21m²
延床面積：109.90m²
構造：鉄骨造平屋建



Plannig

直齋陶房 ギャラリー YONEYAMA1級建築士事務所

備前焼作家の応接ギャラリーです。倉庫の一部を改装したもので、接客と同時に作品を展示・販売するために展示スペースを充実させています。

単調に棚を設置するのではなく、それぞれの棚(展示スペース)がそれぞれの見せ場になるように照明やスリット、木製建具などでデザインしました。大きな出窓を設け、格子状の木製建具をつけて出窓全体を展示スペースとしています。

設計士のイメージしたデザインをそのまま表現することができた納得のいくインテリアとなっています。また、日本の伝統芸術である備前焼の作品が一つ一つ浮き立つようなギャラリーとなっています。

米山 永里子

工事名称 : 直齋陶房 ギャラリー
所在地 : 岡山県備前市
施工 : 寺見建設
設計デザイン : YONEYAMA1級建築士事務所



バルセロナからの寄稿

『女の三段跳』

男にふられたのか、ふったのか、今となっては定かではあませんが、第二幕の色々が、鮮明でほろ苦い思い出とともに香港の下町で終わったのです。幸いヴィクトリア港に関係者の死体を浮かべることなく、申し遅れましたが、私の第一幕は大阪の外大と広島のマツダから始まったのです。そして第三幕は三十路の口八丁を手掛かりにアメリカに渡り、ペン大の大学院でランドスケープ・アーキテクチャー(景観建築、公共広場の設計、都市計画等)を3年間勉強することで始まりました。どうなることかと周りを散々心配させながらもなんとか昨年5月無事修了することができました。

3年間アメリカ英語を聞いたら、その自己主張と押しの強さに辟易し、一生分聞いた気がして、次なる目的地はデザインで今一番熱い街バルセロナと、二晩考えて決めました。フィラデルフィア空港からバルセロナ行きの片道切符で搭乗しようとしたら、ビザがないとバルセロナ空港で強制送還されると脅かされました。見送りに来てくれた中国人のクラスメイトに「大きなことを成し遂げるにはいくつもの困難をくぐり抜けなければならない。」という諺が中国にはあると強く励まされ、涙の別れから7ヵ月。ヨーロッパでは少しばかり名の知れたオフィス< ACTAR ARQUITECTURA > になんとか入り込み、今まで生き延びています。

このオフィスは国際色が豊かです。3人のボスは地元カタラン人ですが、残りのスタッフにスペイン人は0人。スウェーデン人1人、スイス人1人、フランス人2人、ポルトガル人5人。そして日本人が1人。オフィスは基本的に9時始まりですが、9時半の時点でオフィスに居るのはスウェーデン人、スイス人と私のみ。フランス人は10時。ポルトガル人は11時から12時の間にポチポチ姿を見せます。ポルトガル人のマルタは「明日こそ9時に会社する!」と豪語し続け、結局果たせないままポルトガルに帰国してしまいました。

プロジェクトも国際色が豊かです。地元スペインはもちろん、フランス、ベルギー、オーストリア等。オフィスの日常語はスペイン語ですが、プロジェクトによって使用言語も異なります。昨年はカタルニア州のプロジェクトだったため、言語はスペイン語ではなく地元のカタラン語。現在進行中のベルギーのプロジェクトはフランス語といった具合。オフィスで1番整理整頓が旨いのは、当然日本人の私。先日、ポルトガル人のアナが私の捨てたごみを廃品利用してモデルを作っていました。こういう所で創造力に差がでると、ラテンの血のすごさにつづく感心した次第。

この街の人々も、暫くは私を驚かし続けてくれそうで頼もしい限りです。服なし、家なし、子供なし。好きな場所で、好きなことで食べていける。心から幸せ者だと思ふバルセロナでの私の第三幕です。

(7 MAR, 2003)

ランドスケープ・アーキテクト 飯富 美香



研究会の紹介(広島発)

広島住宅研究会

「広島住宅研究会」は、2001年3月10日に第1回をスタートし、月1回の定例会も今年3月で25回目になります。

会員は設計事務所、建設業者等、建築・設計に関わる者をはじめとして、すまいや生活の問題に関心のある方々等、会員の顔ぶれは多種多様です。

私たちは、住宅研究会において今日の住宅の現状が抱えている多くの問題点、中でもシックハウスに代表される健康に関する問題点を主に取り上げて参りました。

しかし、一口に健康問題と言っても化学物質から電磁波、バリアフリー等範囲も広く更にその内訳たるや気密、断熱、調湿、換気、構造、それらに伴う下地材、仕上材等ときりがありません。

それ以外にも地域との関わり、エコロジーと言った環境問題も加わってきます。それらをしっかり勉強し、官公庁の机上論やハウスメーカー主導の押しつけデザイン、極論に走るマスコミ等に振り回されず、この中国地方、特に瀬戸内と言う温暖な気候に恵まれた地域(山間部に入ると寒冷地になりますが)に最も適した住宅の有り方と居住者の幸福を追求して、今後も自己研鑽及び自己啓発に努めて行く所です。

ご興味のお有りの方は、是非、参加下さい。

広島住宅研究会

代表幹事: 河野寛美(河野設計室)

事務局: (株)越智産業内 松岡 又は 白川

TEL/FAX: (082)277-9500

E-mail: s-matsuoka@ochisangyo.co.jp

IPEC21と東京インテリア探訪

『歩きに歩いた3日間』

昨年10月10日~12日、IPEC21と、同時開催の「東京デザイナーズウィーク」を兼ねて東京へ行って来た。メンバーはエルイーオー設計室の中川さんと私の3人。広島空港で日高会長ご夫妻と待ち合わせ、東京へ。いつものことだが空港へ行くどワクワクする。私にとってここからが非日常の始まりだ。東京に着いてホテルに荷物を預けるとまず西新宿のリビングデザインセンターOZONEへ。コンランショップをはじめ20以上のショールームがある中、お目当てのお店をチェックすると、次はオープンしたばかりの丸ビルへ。アンティークなイメージのあった丸ビルは36階のタワーを持つビルへと変身していた。ファッションやインテリアショップ、レストランが入り、平日というのにとても賑わっている。お上りさん気分で見学。その後ゆりかもめに乗り、ようやくIPEC会場に到着。まずはパネル展示コーナーで我がCIPAの出展パネルをチェック。今回は赤と黒が目目をひく斬新なデザインで、なかなかの出来ばえだ(HPでご覧下さい)。会員の皆さんにも見ていただき良かったな、と少し残念に思う。終了時間が迫る中、駆け足ブースを見学し、その後18時からのイブニングコンベンションにも参加した。朝からのハードスケジュールで少々疲れ気味だった私たちCIPAグループは、ほっと一息。チリワインとチーズで乾杯し、気持ちよく酔ってしまった。

翌日は都内を散策。青山のインテリアショップなどを見て回る。「東京デザイナーズウィーク」ということで、あちこちに巡回バスのストップがあったり、ショップごとに展示があったりと活気にあふれている。普段カタログでしか目することのない家具などを実際に見て、触れて、話を聞くことで、なるほど、と思うことがたくさんある。最終日は横浜へ。桜木町駅から歩いて赤レンガ倉庫に行ってみる。海を背に、開放的な広場を挟んでレンガ倉庫が建っている。以前より明るいイメージだ。リニューアルされた倉庫にはレストラン、ホール、映画館などが入り、新しい文化の発信基地に生まれ変わっていた。大人の遊び場という感じ。夜は夜景がきれいだろう。ちょっとうらやましくなった。そこから、少し遠くに見える大さん橋まで気合いを入れて歩く。10月なのに汗ばむほどの陽気だ。ここ大さん橋国際客船ターミナルも新しくなったばかり、波を感じさせるゆるい曲線からなるデッキが特に気持ちいい。犬を散歩させたり昼寝をしたり、まるで日曜日の公園のようなのどかな風景が繰り広げられている。その後歩き疲れた我々一行は中華街へ…。本当によく歩いて、食べて(?)いろいろなものを見た3日間だった。普段はスローペースな私も好奇心につられてパワフルに歩き回ってしまった。ひとりではこんなに充実した時間は過ごせなかっただろう。

ご一緒してくださった皆様、どうもありがとうございました。

事務局(エルイーオー設計室) 喜多 素子



<http://www.ipec21.jp>

IPEC21

3rd INTERIOR PRO EX CO

2003

インテリアからの発信
健康な環境・Ⅲ

OCT. 22 WED. ~ 24 FRI. 2003 TOKYO BIG SIGHT

平成14年度 中国インテリアプランナー協会活動記録

2002.	05.25	H14年度総会
	09.07	『直島とイサム・ノグチ』ツアー
	10.09~11	IPEC21
	10.19	長町三生講演会『感性工学とインテリア』
2003.	01.18	役員会議
	02.15	南研子講演会

平成15年度総会のご案内

5月24日(土)13:30~15:00

広島県情報プラザ2F第3研修室

平成14年度活動報告及び会計報告

平成15年度活動計画及び予算案の承認

役員改選

その他

平成15年度総会を上記の要領で開催いたします。インテリアプランナーの職能の確立のためにどのような活動をすべきかが重要な課題となってきています。会員の皆様に多数ご参加いただきますようお願い申し上げます。

新会員紹介

学生会員：藤林 浩二(広島工業大学 環境デザイン学科)
中嶋 仁志(広島工業大学 環境デザイン学科)
須磨岡一英(広島工業大学 環境デザイン学科)

事務局より

- 平成14年度会費未納入の方は、早急に納入下さいますようお願いいたします。
- 住所変更、事務所移転などありましたらお知らせください。又、近況報告も随時お寄せください。
- 新会員募集
当協会では新規ご入会の会員を募集いたしております。インテリアプランナー資格者の方ご紹介くださいますようお願いいたします。

編集後記

慌ただしい毎日過ごしていると、ふと月日の感覚が薄れている事に、「はた!」とする事がある。一体今年は何年? 昭和までとはリアルに感じたものだが、平成になってしまおうまいけない。もっとも2000年という丁度いい区切りがあったお陰か、西暦で全てを考えるようになってしまった。(キリスト教ではないのだが...)。全てがこの調子である。先日モテゴテの精進料理のお店に行き、妙に居心地の悪さを覚え、口直しにオーリーブオイルのたっぷりかかったイタリアンレストランで安心している自分に「はた!」と...、これからの日本(?)は一体何処にいくのだろう?...一抹の不安が横切ぎった。
さて、今年の当協会のイベントはいつか?? 新たな出会いにワクワクである。是非とも沢山のご参加を...

学生会員より

昨年、IPEC21 2002に参加させてもらってたくさんのブースからの多くの刺激を受けました。また、自分達で『戦場』という展示会の企画・運営を行い、広告・グラフィックデザイナーの清水志緒さん(D7sus4)をゲストに招いて、建築・インテリアというモノ違った角度から見つめ直すことができ、将来、時代を象徴した新しいこと、他の分野と最も接点が多い商業デザインに携わりたいという思いが大きくなり始めました。そこで卒業設計では、広島の商業地区である本通(本通り)を中心に、コミュニケーションと居住空間による商業地区の活性化について設計を行いました。街を回遊、散策する=楽しむという機能が薄れている広島中心市街地に、表現者用住居による新しいコミュニティを作り、多種多様な人が集まる街中での人間的接触をする場、道をつくり、街の回遊、散策により新しい文化が生まれる街の活性化を考えました。

四月からは大昌工芸で働くことになりました。

よろしく願います。



学生会員

広島工業大学環境学部環境デザイン学科
須磨岡 一英

PICK UP

便利なホームページ紹介

JWB Fun Club ホームページ

<http://member.nifty.ne.jp/KCF/JWB2000/>

JW_CAD/JW_WINの図面をエクセル、ワードに貼り付けたい場合、JWB32/2002を利用する目的で公開されているホームページです。

呉CADフォーラム(KCF) ホームページ

<http://member.nifty.ne.jp/KCF/>

JW_CAD/JW_WINのことにして色々なソフトの紹介や質問掲示板等を公開しているホームページです。

ひろしま CAD&CG勉強会 ホームページ

<http://isweb10.infoseek.co.jp/art/cadcg/>

CADやCGに関する勉強会を定期的に開催しているCG等の紹介や講習会等を紹介しています。

JW_CAD/JW_WINの2.5Dのデータをそのまま3次元に出来る3Dソフト ARCDREAM(J) ホームページ

http://member.nifty.ne.jp/KCF/ARCDREAM_JW/

JW_CADユーザと全く同じマウス操作でモデリングや画面操作が出来る3Dソフトが登場しました。「ARCDREAM(J)」「アークドリーム(JWラー版)の紹介HPです。

(財)建築技術教育普及センターより

平成14年度 インテリアプランナー試験の結果

	一次試験(学科)	二次試験(設計製図)
受験者数	453人	496人
合格者数	292人	155人
合格率	64.5%	31.3%
最終合格率	24.0%	

平成14年度 中国インテリアプランナー協会会員数

正会員：99名 準会員：0名 学生会員：3名 賛助会員：13社
平成15年度 3月1日現在

発行者：中国インテリアプランナー協会

〒731-5135 広島市佐伯区海老園1-13-7

TEL. 082-923-2132 FAX. 082-922-0018

HP：<http://cipa21.com/> E-mail：cipa@cipa21.com

発行日：平成15年4月1日

編集：日高卓三、中川裕二、中川圭子、喜多素子